



## 世田谷少年サッカー連盟8人制大会における統一競技会規定①

本規定は世田谷少年サッカー連盟のすべての公式戦に適用する。  
(都大会の予選を兼ねない試合では適用を一部緩和することがある)  
(以下「世田谷の8人制統一ルール」と略称)。

以下の項目を除き、国際サッカー評議会 ( I F A B ) および日本協会競技規則に従って実施される。

### ● 競技のフィールド

- ・ 大きさ
- ・ 68m × 50mを推奨するが、使用する試合会場の大きさによって、変更することも可能とする。
- ・ フィールドのマーク等・ペナルティーエリアの縦12m
  - \* ゴールエリアの縦4m
  - \* ペナルティーマーク (ゴールラインから) 8m
  - \* ペナルティーアークの半径7m
  - \* センターサークルの半径7m
  - \* 交代ゾーン6m (ハーフウェイラインから両サイドへ3mずつ)

### ● ゴール少年用サッカーゴール (5m × 2.15m) を推奨する。

### ● ボール4号球を使用する。

### ● 競技者の数

- ・ 8人の競技者 (うち1人はゴールキーパー) が試合に出場する。
- ・ 前半開始時に6人で試合成立。6人未満は試合を開始しない  
退場者が出た場合は交代要員の中から競技者を補充できる。
- ・ フィールドプレーヤーの交代手続
  - \* 交代によって退く競技者は、交代ゾーンからフィールドの外に出る。
  - \* 交代要員は、交代によって退く競技者がフィールドの外に出てから、交代ゾーンからフィールドに入る。
  - \* 交代は、ボールがインプレー中、アウトオブプレー中に関わらず行える。
  - \* 交代について、主審の承認を得る必要はない。
  - \* 交代によって退いた競技者が、正しい交代手続を経たうえで、再び競技者としてフィールドに戻ることを認める。

### ・ ゴールキーパーの交代手続

- \* ボールがアウトオブプレーになった時、主審に通知し主審の承認を得てから交代手続を始める。
- \* 交代して退くゴールキーパーは、主審の承認を得て、境界線の最も近い地点からフィールドの外に出なくてはならない。
- \* 交代要員のゴールキーパーは、主審の承認を得たのち、ハーフウェイラインのところからフィールドに入る。
- \* ゴールキーパーとフィールドプレーヤーが交代する場合も、ボールがアウトオブプレーになった時、主審の承認を得たうえで交代する。

### ● 競技者の用具

- ・ ユニフォームは、原則として、日本サッカー協会ユニフォーム規程に準じる。  
1着以上のユニフォーム (シャツ、ショーツ及びソックス) を試合会場に持参し、着用しなければならない。  
(ユニフォームは2着以上の持参が望ましい。また、ユニフォームの色彩と異なる色のビブスを必ず持参すること。)
- \* ユニフォームのデザイン、ロゴ等が異なっても、大会管理者が認める場合、主たる色が同系色であれば着用することができる。
- \* ゴールキーパーのユニフォームについて、ショーツ、ソックスはフィールドプレーヤーと同系色でも良いものとする。  
(シャツはビブスの代用も可、その場合フィールドプレーヤーとは異なる色のビブスにする)
- \* 主審は、対戦するチームのユニフォームの色彩が類似しており判別しがたいと判断したときは、両チームの立ち会いのもとに、その試合において着用するユニフォームを決定する。その場合、主審は両チームの各2組のユニフォームのうちからシャツ、ショーツ及びソックスのそれぞれについて、判別しやすい組み合わせを決定することができる。また、1着のユニフォーム持参の場合、主審はいずれのチームが同色のビブスを着用することを決定する。
- \* ソックスにテープまたはその他の材質のものを貼り付ける、または外部に着用する場合、ソックスと同色でなくても良い。
- \* アンダーシャツ及びアンダーショーツ、タイツの色は問わない。ただしチーム内で同色のものを着用する。
- \* すねあては必ず着用する。

※中央大会 (都大会) の規定は異なるので参加クラブは都度確認して対応すること。



## 世田谷少年サッカー連盟8人制大会における統一競技会規定②

- 審判「審判員規程 および 基本マニュアル」を参照
- 試合時間
  - ・各大会要項に記載されている試合時間に従う。
  - ・アディショナルタイムは**けが**の治療と飲水タイム、**クーリングブレイク**のみを対象とする。
- プレーの開始および再開
  - ・キックオフから直接相手のゴールに入った場合、得点を認めず、相手チームのゴールキックで再開される。
  - ・フリーキックの場合、ボールがインプレーになるまで、相手競技者は、ボールから7 m以上離れる。
  - ・スローインの場合、相手競技者は、スローインが行われる地点から2 m以上ボールから離れる。
  - ・ドロップボールの場合、ドロップボールを行う競技者以外はボールがインプレーになるまで4 m以上ボールから離れる。
  - ・コーナーキックの場合、インプレーになるまで、相手競技者は、コーナーアークから7 m以上離れる。
- ファウルと不正行為
  - ・競技者が退場を命じられた場合、その競技者のチームはフィールドでプレーする競技者を交代要員の中から直ちに補充できる。
  - ・退場を命じられた競技者、累積警告が3回となった競技者は、次の1試合を出場停止処分とする。
- 前、後半が終了したものの、両チームの得点と同じ、もしくは両チームとも無得点となりながらも、勝者を決定する必要がある場合の延長戦およびペナルティーマークからのキック（以下PK戦）
  - ・各トーナメントの決勝および3位決定戦では、10分間（前、後半それぞれ5分）の延長戦を行う。  
延長戦でも勝敗を決しない場合はPK戦を行う。
  - ・決勝および3位決定戦以外の試合では、後半終了後すぐにPK戦を行う。延長戦は行わない。
  - ・PK戦では、両チーム3本ずつのキックを行った後、両チームの得点と同じ、もしくは両チームとも無得点の場合、サドンデスにより勝敗を決する。
- ベンチ入り指導者
  - ・テクニカルエリアは設置しないが、その都度、ひとりの指導者が戦術的指示を行う。
  - ・都大会とそのブロック予選に相当する大会では常に2名以上いること。またそのうちD級以上の有資格者が1名以上いること。最大ベンチ入り指導者は3名とする。（都大会は最大5名）  
1名そろっていない場合は、資格者不在の手続きを行なう。（20年度からの暫定処置です）  
**2024年度からベンチ入り指導者は必ず有資格者となる。**
- その他
  - ・ユニフォームチェックや選手集合時間に遅れた選手はメンバー表に氏名の記載があれば、第4の審判員による用具の確認を経て出場を認める。